

「高専における情報基礎教育の標準化に関する調査研究部会」の活動について

電子情報工学科 藤原 正敏

高度情報化の進展の中で、好むと好まざるとに関わらず、私達は「情報」の洪水の中に生きていかなければならない。このような状況においては、社会や国語などの教科と同じように、学校において「情報」に関しての学習の必要性が急務となってきました。そして、教育のあり方についても各方面で議論され、ここ数年の間に、小中高においても正式な教科として具体化してきています。そのような背景の中で、「情報」に関する高専独自の学習のあり方、教科の必要性の認識が高まってきました。

具体的には、高専情報処理教育研究委員会（専情委）の中に標記調査研究部会が設置されてメーリングリストを活用した全国規模での活動を開始しています。私もその部会員の一人として議論の輪に加わっております。

最終的には、全国の高専において「情報基礎（仮称）」の教育実践がなされなければならないと考えております。そのためには、多くの方々の理解と協力が必須のこととなります。

教育の実践を夢物語に終わらせたくはありません。ここにその活動の紹介を致します。

詳細は、Web上に公開しておりますし、3月8日の専情委第53回委員会に中間報告し、了承されております。この報告書は、インターネットを介して入手可能です。是非、読んでいただこうお願い致します。

以下に、この調査部会の活動の背景を述べている中間報告書の導入部「はじめに」を示します。

はじめに

高等専門学校では、昭和51年に教育課程が改正され、教科「情報処理」が必修科目になった。以後、各校とも熱心に情報処理教育に取り組んできており、高等専門学校情報処理教育研究委員会（以下、専情委）では、研究発表会や各種実態調査を実施し、その中で情報処理教育の在り方に関する問題を何度となく取り上げ議論してきた。平成5、6年度に情報処理学会から出された（文部省委嘱調査研究）報告書「短期高等教育における情報処理教育の実態に関する調査研究」もその成果の一つである。この中で、低学年における情報処理教育は「共通基礎としての情報処理教育とし、学生がおしなべて共通の概念で数学や物理を学ぶと同じように、学科の枠を越えた共通基礎科目とする」と述べられている。この理念はきわめて適切な提案であったが、高専の情報処理教育は専門教科と深く結び付いていることや、各高専各学科の事情、担当教官の認識、スキルの違いなどから、なかなか統一された教育内容・方法になっていないのが現状である。

一方、近年における社会の情報化を受けて、初等中等教育での情報教育の導入、高校での教科「情報」の実施など、高専を取り巻く状況が大きく変化している。このような状況を踏まえて専情委では、平成12年度の第50回、51回委員会において、「高専における情報基礎の在り方」を協議題として取り上げ検討した。その結果、「高専の情報基礎教育についてのモデルカリキュラム、および標準的な教科書を早急に作る必要がある。そのための調査研究ワーキンググループをこの専情委の中に作る」ということが合意され、これを踏まえて、平成13年6月、「高専における情報基礎教育の標準化に関する調査研究部会」

を専情委の中に設置し、

(1) モデルカリキュラムの作成

(2) 教科書の作成

を検討することになった。ここで (1) を平成 13 年度に、(2) は平成 14 年度にと 2 年計画で行うこととした。

本報告書は、平成 13 年度の調査研究結果を中間報告としてまとめたものである。

なお、本調査研究は専情委委員長杖である群馬高専が要求した文部科学省「13 年度高等専門学校教育改善充実費」によって進められたものであることを付記する。

平成 14 年 3 月
情報基礎教育の標準化に関する調査研究部会

参考資料

○「情報基礎教育の標準化に関する調査研究」中間報告書 (PDF ファイル)

<http://www2.tsuyama-ct.ac.jp/okada/fie-ml/section/Report2001.pdf>

<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/okada/fie-ml/section/Report2001.pdf>

○高専情報処理教育研究委員会 (専情委)

<http://info.numazu-ct.ac.jp/senjoui2/>

○情報基礎教育の標準化に関する調査研究部会

<http://www2.tsuyama-ct.ac.jp/okada/fie-ml/section.htm>

○高専における情報基礎教育に関するメーリングリスト

<http://www2.tsuyama-ct.ac.jp/okada/fie-ml/>